

2016 年 12 月

日本企業の品質管理の課題—品質コストの観点から—

情報学部経営情報学科 志村ゼミ

B3P21060 嶋原 菜摘

【卒業論文概要】

近年、日本企業の品質管理が世界的に問題となっていることと、リーマンショックなどで不景気のために経費削減される品質コストに着目し、品質コストの観点から日本企業の品質管理の課題を解決していく。

日本企業の品質問題は 2008 年のタカタのエアバックの品質問題による大規模なリコール問題が世界的に有名だが、日本国内でも 2014 年にまるか食品のカップ焼きそば“ペヤング”に虫・異物が混入したために、製造を一時停止するなどの問題が多発している。これらの問題は、企業のイメージやブランド力を著しく下げる要因になり、また、問題が起きてからの対処だと非常にコストがかかり、企業にとって負債でしかないことが読み取れる。そこで、品質管理活動を普段からしっかりと取り入れることで企業の確かな利益確保へと繋がるとは考えられないだろうか。この問題を品質コストの 4 つの予防コスト、評価コスト、内部失敗コスト、外部失敗コストに機会損失の計測を加え、問題を未然に防ぐ手立てを提案していく。しかしながら、品質管理については従業員の意識や正確な作業が求められる。そのため、機会損失のみに限らず、従業員の教育費用も計測していくべきだという課題が提示した。